

「投技と返し技」

- ・攻撃に対し返し技が施された場合においては、最初に自身の体側（横捨身技）、もしくは背中（真捨身技）をついた選手が、明らかに立技の状態から動作をコントロールし、技を掛けきらない限りはスコアとはならない。
- ・スコアを与えるに値する場合、適切なスコアが与えられる。
- ・どちらの選手も明らかに動作をコントロールすることなく、両選手が同時に着地した場合は、双方にスコアを与えない。
- ・着地後のいかなる行為も寝技とみなす。

※全日本柔道連盟審判委員会注釈

返し技を施した選手が、立ち姿勢から明らかにコントロールして相手を投げきった場合、返し技を施された選手の状況に応じてスコアを与えることとなる

「肩三角グリップ」



- ・寝技の場合、肩三角グリップを施しても良い。



- ・寝技において、脚で相手の体を固定し肩三角グリップを施すことは禁止 行為であり「待て」が宣告される。



- ・立技における肩三角グリップは「待て」が宣告される。